

学生卒業設計制作NCF空間ディスプレイアワード受賞作品

受賞年	2022年	
受賞タイトル	優秀賞	
区分	Ⅱ. 生活ディスプレイデザイン	
フリガナ	キムラ ハナ	
制作者名	木村 華	
フリガナ	トウホクコウギョウダイガクコウガクブケンチクガクカ	
大学・学部・学科	東北工業大学工学部建築学科(2022年3月卒業)	
フリガナ	フクヤシヨウコ	職名
推薦者名	福屋粧子	建築家、東北工業大学 建築学部 建築学科 教授
作品名	空間を織る～着飾り、繕う建築～	
概要	<p>服の価値、可能性を気づかせる場を提案する。</p> <p>ファストファッションは安くトレンドを手に入れられる反面、すぐに捨てられ、新たな服を購入するという悪循環を招いていると考えられる。そこで、捨てる服を減らすことができ、一着の服をいろいろなデザインで楽しんでもらいたいという思いから服のリメイクができる場を設計する。</p> <p>従来の服作りの作業工程を細分化し、街の中に見えるようにする。</p> <p>対象敷地は、東京原宿のキャットストリートの延長線上にある駐車場。ストリートを歩く流れでこの建築に入り、衣服の作られ方を再認識してもらうことを目的とする。</p> <p>署室は、布を選ぶ場所、裁断室、裁縫室の3つがあり、これらの部屋が纏うものを服のアウトターとインナーに見立てて設計する。「服を着た時の感覚と、建物に入った時の感覚」や「部屋から部屋に移動する行為と、服を着脱する行為」はどちらも通ずるものがあると感じた。屋根をアウトターとし、部屋を区切る内壁をインナーと見立て設計する。屋根は柱と梁のみを設け、布をかける。緩く垂れ下がる布がランダムに配置されており、人と布との距離感を変える。空間の圧迫感や密着度が布の高さで代わり、暑い時には薄着、寒い時には厚着するかのよう、場所によって見え方や感じ方を変える。インナーとしての内壁は、何枚もの布で表現し、服を着脱するように布をかきわけたり、くぐったりすることで部屋の出入りができるように配置する。</p> <p>布や古着を選ぶ空間を麻、裁断室はナイロン、裁縫室はデニムに見立てて設計し、布の特徴を各部屋に落とし込み、人と物の新たな関係性を空間で表現する。</p> <p>このような建築の中で服の価値や可能性を見出し、生まれ変わった服で出かけていけるような場を提案する。</p>	
		

製作者名	木村華
作品名	空間を織る～着飾り、繕う建築～

【コンセプト解説】

服の価値、可能性を気づかせる場を提案する。

トレンドを安く手に入れられるファストファッションは、安く手に入ることですぐに捨て、すぐ新たな服を購入するという悪循環を招いていると考えた。

そこで、捨てる服を少しでも減らし、ここを直したらまだ着ることができる、一着の服をいろんなデザインで楽しんでもらいたいという思いから、服のリメイクができる場を設計する。

従来の服作りの作業工程は、工場の中で布作り、布選び、裁断、縫製が行われ、私たちは市場に出て初めて完成形を見ることができ、購入して着用する。その作業工程を細分化し、街の中で見えるようにし、服作りが身近な存在となるようにする。

対象者は、流行に敏感な若者や学生、服の修繕をしたい人、服を改良してより自分に合ったものを身につけたい人、自分の作品を地域に発信したいデザイナーや、服飾学生など。提案として、住民が自分の古着や、直したい服を持ち寄る。捨てられるはずだった他人の服や、自分の服をリメイクし、着用や、販売を行い、服の可能性を気づかせる場を提案。

住民やデザイナーが作ったリメイク作品が展示されているギャラリー、生地、古着を選ぶ場、布を裁断する裁断室、ミシンやトルソーが置いてある裁縫室の3つの部屋を、布の特徴になぞらえて設計。

平面計画として、糸が布を縫い合わせるように、糸を人の動線と見立て、ギャラリーで展示を見る人と、作業室を使う人の動線が縫い合わさるような空間構成。

対象敷地は、東京原宿のキャットストリートの延長線上にある駐車場。ここは、古着からファストファッションまで、多くのファッションストアが混在している敷地。多種多様な服が手に入る場所であることから、客層も広いため、服を買う多くの人に服の可能性や価値を見出してもらえと思い設定した。キャットストリートに来る人達がストリートを歩く流れでこの建築に入り、衣服の作られ方を再認識してもらうことを目的とする。

各所室について。

布作りをする各部屋が、ギャラリーによって繋がれている空間になっており、各空間を布のイメージに落とし込みたい。人の集まる場と布の性質を掛け合わせ、建築が衣服のように人々をまとう空間設計。

布や古着を選ぶ空間を麻として見立て設計。

自分好みの布や服を探したり、どんなデザインにしようか悩みながら選ぶ時、その場には滞留が生まれる。麻は、水分を吸収しやすい繊維です。繊維が水分を吸収して、繊維の空洞に水分が溜まる様子と、人がその場に溜まる様子が類似していることから、このような形のハンガーラックを点在。

次に裁断室。裁断室はナイロンに見立てる。ナイロンは人工的に作られ、計算された繊維。裁断の工程は、大きな布を使うこともあり、神経を使う作業であることから、デザインに凝るよりも実用性を重視した空間。

裁縫室は、デニムに見立てて設計。デニムは綾織という織物で、縦糸2本、横糸1本の順に三つ綾と、縦糸2本横糸2本の順に織られている四つ綾がある。その織り方を模してパーテーションを交差させ、机、トルソー置き場、道具棚でユニットを作る。そのパーテーションは、デニム素材でできている。このデニムは、裾上げした時に出たズボンのハギレや、古着が使用され、服から服だけではなく、服から家具になるという可能性も伝える空間となりえる。

